

令和6年度 第2回学校評価（12月実施）結果

重点目標

教育目標「ゆめをもって 自分らしく はつらつと生きる子」

⑤ なかよく思いやりのある子
⑥ がんばりがきき、ねばり強い子

⑦ かんがえを深め学び続ける子
⑧ わたしもあなたも健康な子

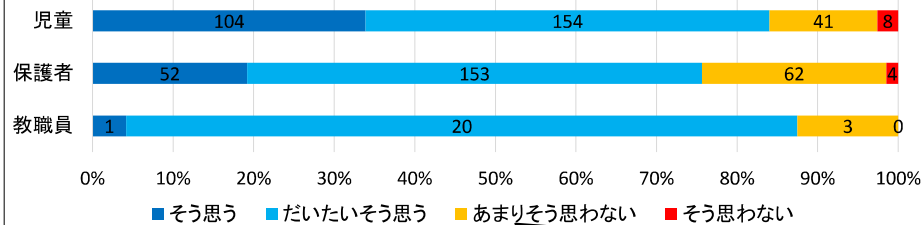
※ 児童アンケート⇒「わたしは」、保護者アンケート⇒「わたしの子供は」、教職員アンケート⇒「中川小の児童は」で書き出しています。児童用は、低・中・高学年用に分けています。

「そう思う」「だいたいそう思う」の合計が70%以上 ⇒ ○ 評価が良い項目
「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が30%以上 ⇒ ● 評価が良くない項目

⇒ ……今後の取り組み

A【学校教育目標について】

A①目標をもち、ねばり強く取り組んでいる。



項目1「目標をもち、ねばり強く取り組んでいる」

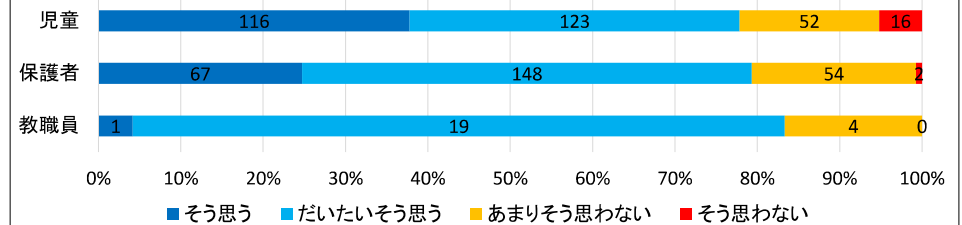
〔分析〕

児童の高評価の割合はあまり変わりませんでしたが、「そう思う」の割合が減りました。2学期は、個人の目標に向かって頑張る行事や学習活動がたくさんありましたが、「粘り強く」取り組むことができたかどうかのポイントとなっているのかもしれません。教職員の評価については、高評価が増えています。活動の中で、児童一人ひとりの頑張りを認める機会を多くもてたことが要因かと思えます。

〔今後の取り組み〕

児童が達成感を味わい、次の活動への意欲付けとなるような価値付けの仕方を工夫していくとよいかもしれません。活動後の振り返り等で次のステップを示すなどして、活動のスパイラルを構築し続けていくことで、児童の意欲をかき立て、目標に向かって頑張る姿を継続していけるのではないかと考えます。

A②自分のよいところを知っている。



項目2「自分のよいところを知っている」

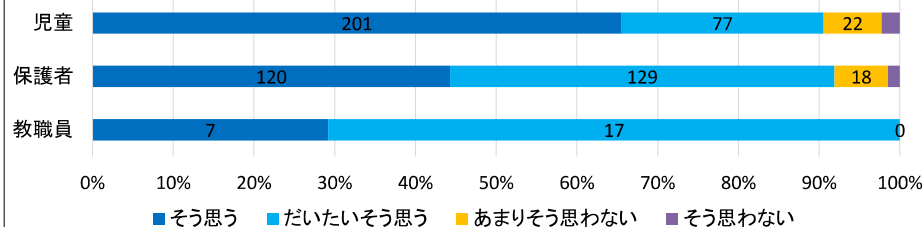
〔分析〕

児童と教職員の評価が少し上がりました。スマイルカード(よいこと見付けのカード)を活性化させるために、生活委員会が中心となり、金のスマイルカードイベント(スマイルカードを20枚書くと、金のスマイルカードがもらえる)を企画しました。学校全体でスマイルカードの活発な交換ができたことが、成果として表れていることが考えられます。

〔今後の取り組み〕

今後も折を見て、児童同士がお互いのよさを認め合い、伝え合う活動を実施していきたいと思えます。児童は、友達から見た自分のよさを客観的に把握し、他者から見た自分のよさと、自分自身が思う自分のよさを比べるよい機会になっていると考えます。褒めてもらった行動は、今後も継続していきたいと思うでしょうし、友達に伝えたいことも、自分ができるようになりたいと考えるでしょう。このようにして、よい行動の循環ができていくことを期待しています。

A③学校生活を楽しく送っている。



項目3「学校生活を楽しく送っている」

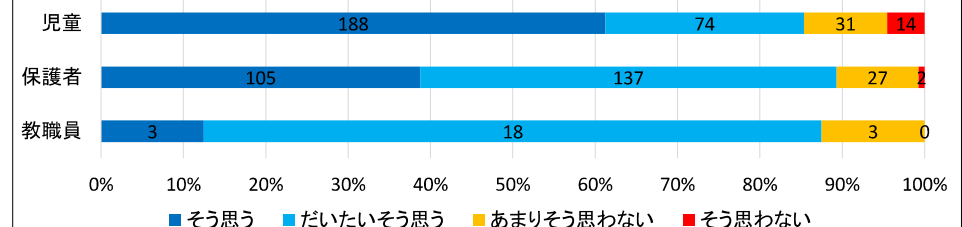
〔分析〕

高評価100%を目指したい項目です。学校での生活に、不満や不安をもっている児童が一定数います。特に、保護者の低評価が増えたことが気になります。児童が、学校で楽しく過ごすことができていない、と感じているということです。個に寄り添った対応を丁寧にしていくことを心掛け、少しずつでも児童が安心して学校生活を楽しむことができるような環境づくりをしていくことが必要です。

〔今後の取り組み〕

学校生活は集団生活の場であるので、クラスに自分の居場所があり、信頼できる先生や友達がいることが必要だと考えます。教職員としては、学校全体で一丸となって、よい学校づくりに励んでいきます。その中で、児童は自己存在感や自己肯定感を高め、主体的に学校生活をよりよくしていこうと取り組んでいけることも期待しています。

B④困ったことがあったときにお家の人に相談できる。



項目4「困ったことがあったときに先生やお家の人に相談できる。」

〔分析〕

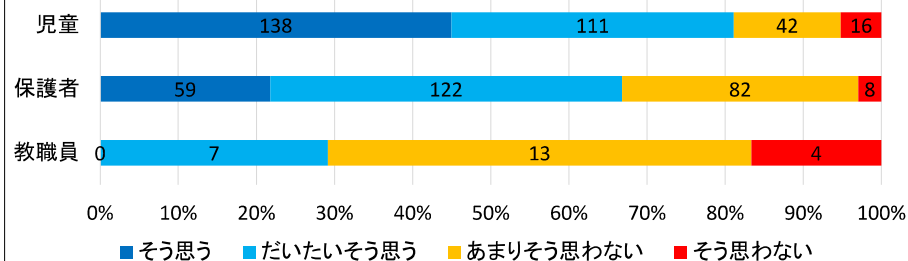
児童の評価が、第1回より少し上がっています。しかしながら、まだ15%近くの児童が、低評価としています。「そう思わない」の回答は、3分の2くらいに減りました。保護者、教職員の低評価も減少傾向ではあります。

〔今後の取り組み〕

相談しやすい関係づくりには、相手との信頼関係が大切であると考えます。日頃の地道なコミュニケーションを大切にすることで、何かあったときに頼られる存在になることが期待できます。教職員としても、日頃の児童への声掛けを大切にし、相談ができるような関係づくりをしていきたいと考えています。また、アンケート等を活用し、悩みの早期発見と寄り添った支援が実現できるよう、意識していきます。

B【生活について】

B⑤友達や地域の人に、自分からあいさつをしている。



項目5「友達や地域の人に、自分からあいさつをしている」

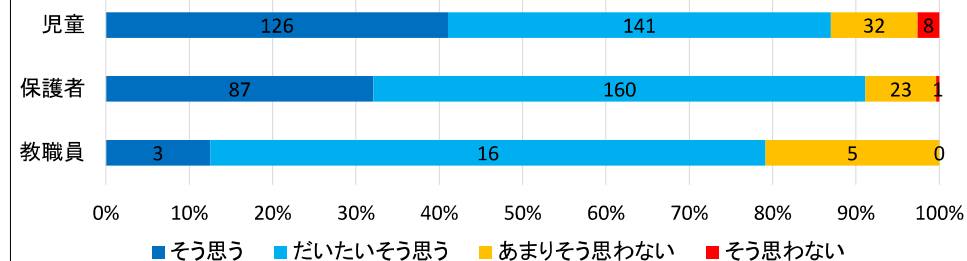
〔分析〕

児童の割合としては、第1回と大きな変化はありませんでした。生活委員を中心に、あいさつカードの配付イベントをしていて、朝のあいさつが活発になったようでしたが、やはり「地域」ではできていない、という実感があるのかと思います。保護者の評価はやや落ちましたが、教職員の高評価は増えました。イベントや、クラスでの呼び掛けもあり、自然とあいさつができる児童が増えてきたように思います。

〔今後の取り組み〕

引き続き、あいさつを活性化させるようなイベントであったり、気持ちのよいあいさつを称揚できるような環境づくりを続けていきたいです。学校全体で、いつでもあいさつをし合うことが当たり前、という感覚をもてるようにしていきます。それが、地域にも広がるようにしていくことが、今後の一番の課題であると考えます。

B⑥思いやりの気持ちをもって生活している。



項目6「思いやりの気持ちをもって生活している」

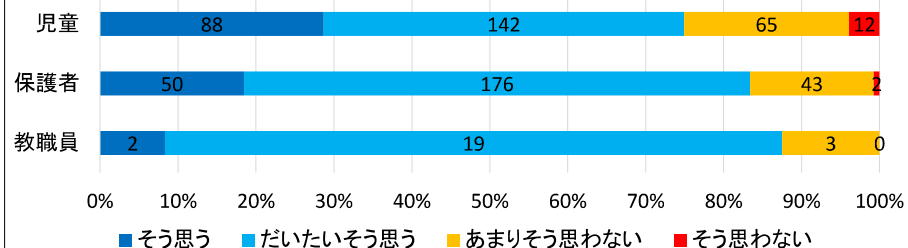
〔分析〕

第1回の結果と比べて、児童の高評価が5%くらい増えています。相手を思いやって接しよう意識している児童が増えたのかもしれませんが、しかし、「そう思わない」を選んだ児童・保護者がいるということは、人間関係がうまくいかず、ひどいことをされたり、言われたりした児童が一定数いることを示していると考えられます。

〔今後の取り組み〕

低評価を付けている児童への迅速な対応が求められます。いじめアンケート実施後は、気になった児童と面談ができるように、クラスの全員と面談をする時間を設けています。何かあった際には、組織として対応しています。教職員として、今後も個に寄り添い、一人ひとりの思いを大切にしたい支援を心掛けていきます。

B⑦友達やクラス、学校のためになることを進んでしている。



項目7「友達やクラス、学校のためになることをしている」

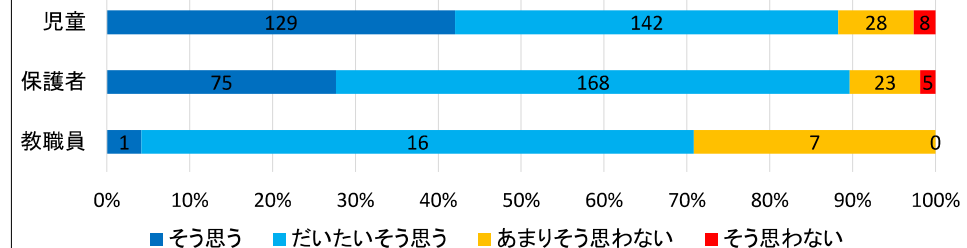
〔分析〕

児童の評価が少し低下しました。自分以外の人のために行動するということは、なかなかできることではないのですが、児童の様子を見ていると、進んでみんなのために働いている場面をよく見かけます。もちろん、特定の数人が、ではなく、ほとんどの児童が、様々な場面で活躍しています。それらを、教職員がどう価値付け、子供たちに還元していくのが大切なのではないかと考えます。

〔今後の取り組み〕

児童のよい表われを、きちんと価値付け、称揚し続けていく必要があります。「みんなのために」なることがどれだけ素晴らしいことなのか、きちんと伝え、考えさせていきたいです。自分から進んでそういった行動を価値あるものだとして理解してできるようにしていくことが、よりよい人間関係づくり、クラスづくり、学校づくりにつながっていくものであると考えます。

B⑧きまりを守って生活している。



項目8「きまりを守って生活している」

〔分析〕

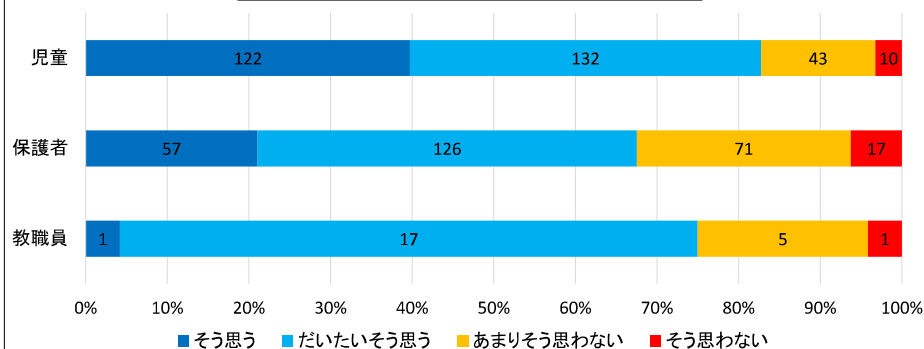
児童の評価は少し上がっているのですが、教職員の評価が下がっています。教職員の評価は、「そう思う」が減り、「あまりそう思わない」が増えています。実際、校内でも学校で共通理解しているルールがきちんと守られず、問題行動として生徒指導につながる事例がままあります。

〔今後の取り組み〕

ルールとは、何のためにあるのか、誰のためにあるのか、をきちんと考えさせ、ルールを守ることが、大切な友達や自分自身を守ることに繋がっていることを理解させていきたいです。また、ルールについても、厳格に規定すべきものと、ゆとりをもたせた方がよいことがあると思います。縛るだけでなく、考えさせながら、よりよい学校生活づくりができるように、柔軟な思考をもっていきたいと考えています。

C【学習について】

C⑨家庭学習に自分から進んで取り組んでいる。



項目9「家庭学習に自分から進んで取り組んでいる」

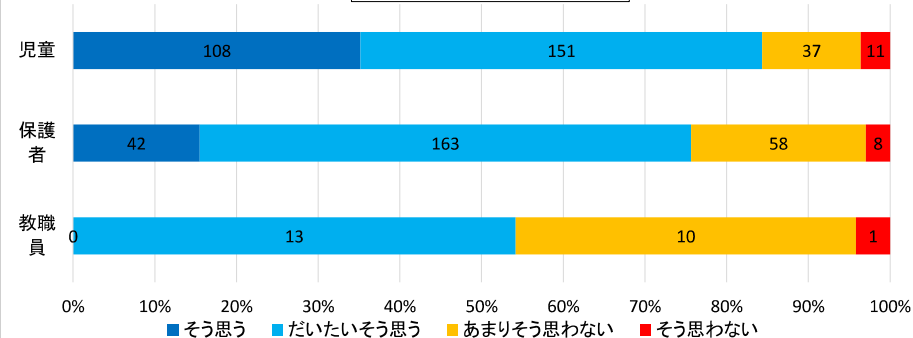
【分析】

第1回と比べ、児童と教職員の高評価が少し減っています。2学期より、Chromebookの持ち帰りを実施し、家庭学習の充実も図りましたが、現状、成果としては上がってきていないように思います。個人の操作技能もそうですが、様々な機能のアプリに対応し、個々に自身の学びに生かすことができるように支援してあげることが必要であると考えます。

【今後の取り組み】

家庭学習の形については、まだまだ試行錯誤しながら検討中の段階です。これまで通りやった方がよいこともあるし、Chromebookを使うことでより便利になり、学びが深まることもあります。各学年のよい実践を紹介し合いながら、必要で充実した家庭学習ができるよう、工夫して取り組んでいきます。

C⑩学習をよく理解している。



項目10「学習をよく理解している」

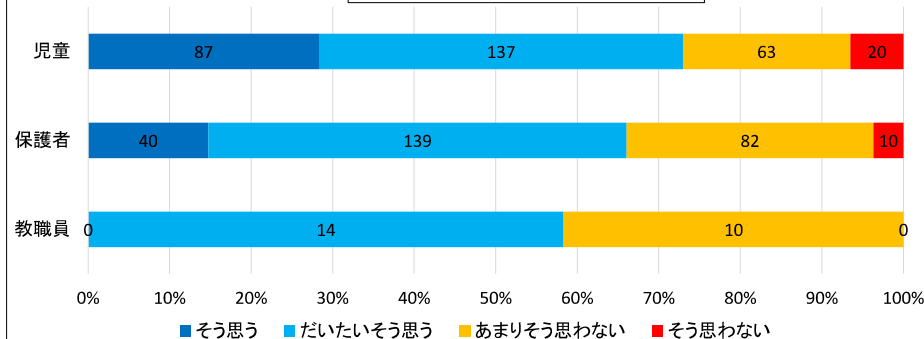
【分析】

児童の高評価は増えましたが、教職員の高評価は減りました。保護者の高評価も、少しですが増えています。しかし、児童の高評価のうち、「そう思う」の割合は減り、「だいたいそう思う」の割合が増えています。

【今後の取り組み】

学校では、子供たちが「わかる」授業、「できる」授業を目指し、工夫して取り組んでいます。協働学習を通して、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりする中で、「わかる」「できる」を実感している児童も多いと思います。しかし、その「わかった」「できた」ことを、きちんと「学力」として定着させるためには、練習であったり、反復であったりが必要になってきます。今後とも、児童が学習をよく理解できるように学習計画を見直し、実践していきます。

C⑪自分の考えを進んで伝えている。



項目11「自分の考えを進んで伝えている」

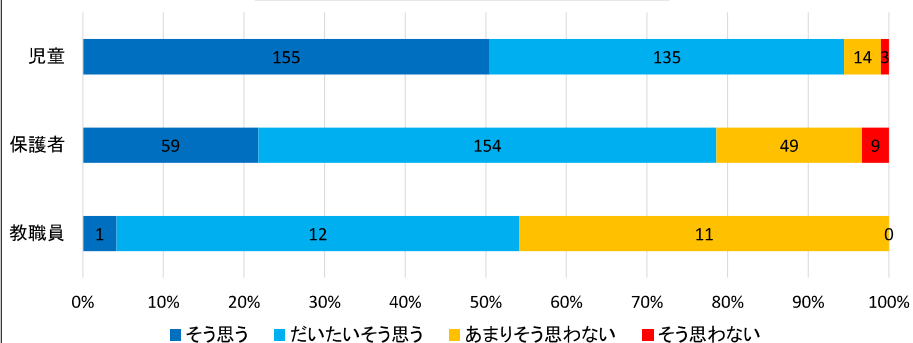
【分析】

全体的に、第1回の結果より高評価が少しですが減っています。「自分の考えを進んで伝えている」とは、必ずしも一斉授業の中の挙手による発表だけではなく、グループやペアで学習しているときの発言も含まれます。普段の授業の様子を見ていると、どの学年もグループやペアでの学び方を工夫し、児童同士が学び合う場を設定しています。そういった協働学習を推進している中で児童も自分の考えを進んで伝えるのがうまくなっているのを感じます。

【今後の取り組み】

日頃の学習の中で、友達に自分の考えを伝えることのよさ、楽しさをもっと実感させていけるようにしたいと考えています。自分が思ったことを話して伝える、自分が考えた方法について説明する、絵や図を用いて伝える・・・と、様々な伝え方や伝える場面があります。様々な学習体験を通して、必要感をもって伝える楽しさを味わわせていきたいです。

C⑫教師や友達の話をしっかり聞いている。



項目12「教師や友達の話をしっかり聞いている」

【分析】

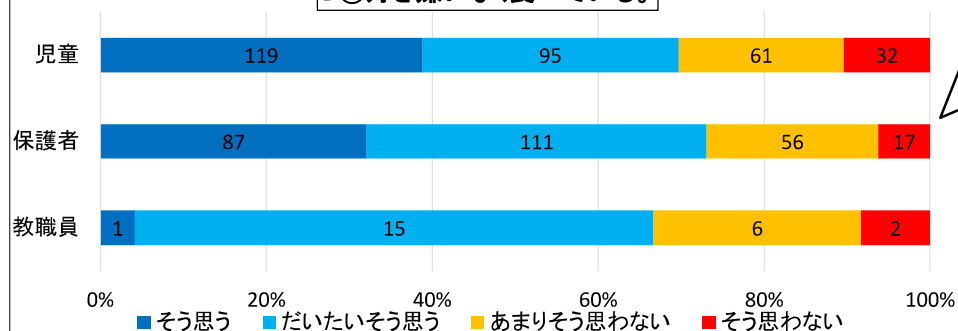
第1回と比べ、児童の高評価は少し増えましたが、保護者と教職員の高評価は少し減っています。「聞く」「聴く」ことは、コミュニケーションの基本ではありますが、不十分だと感じている保護者や教職員が増えているようです。児童の認識以上に、大人は気になっている、ということでしょう。「そう思わない」の評価も、児童は減りましたが、保護者は増えています。

【今後の取り組み】

社会生活を送っていくうえで、コミュニケーション能力はとても大切です。いつでも、話している人の声に耳を傾ける習慣というのは、大切にしていってほしいと思います。そのために、聞く姿勢であったり、聞き方であったり、今一度、徹底し直しておくといふことがあるように思います。また、よい聞いたことをきちんと受け止め、考えることも習慣化できるように支援していきたいです。耳から入る情報をきちんと収集し、整理し、活用できるような支援を心掛けていきます。

D【健康・安全について】

D⑬好き嫌いなく食べている。



項目13「好き嫌いなく食べている」

〔分析〕

第1回と比べて、保護者と教職員の評価が大きくなりました。学校では、給食指導を中心に、様々な「食育」を意識的に取り入れています。保護者への発信や児童の様子などから、児童が「食」への関心を高め、苦手なものでも少しずつ食べられるようになってきている様子を認められたのかもしれません。

〔今後の取り組み〕

御家庭でも、学校でも、児童がいろいろな食材をおいしく食べられるように工夫して用意してくださっています。学校では、引き続き、食べなくなるメニューの考案であったり、地場産の食材・季節の食材をおいしく食べる工夫であったりを行いながら、給食の時間を楽しみにしている児童を増やしていきたいと考えています。また、量についても、自分できちんと食べられる量を設定し、残菜なく食べられるように調整していく力も育てていきたいと考えています。

項目14「進んで運動したり、外で遊んだりしている」

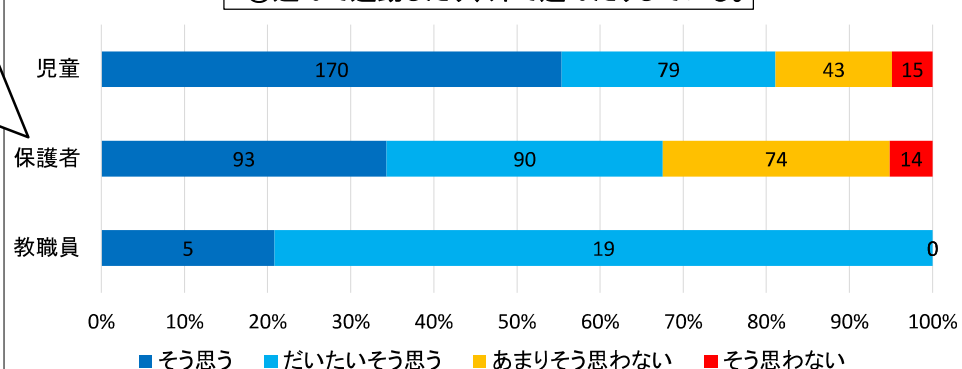
〔分析〕

第1回の結果より、児童と教職員の高評価が増えました。教職員は、全員が高評価を付けています。2学期の最初は猛暑の日が多かったのですが、だんだんと気候が落ち着き、外で遊ぶ児童が増えていきました。教職員も、毎日のように外に出て、児童と一緒に遊ぶ姿が見られています。もちろん、教室で過ごす児童もいるため、個人差はありますが、逆に、保護者の低評価は増えました。児童は帰宅後、屋内でゲームをしたり動画を見たりして過ごすことが多いようで、保護者の視点からは、外遊びをしていない、と感じる方が多いのかもしれません。

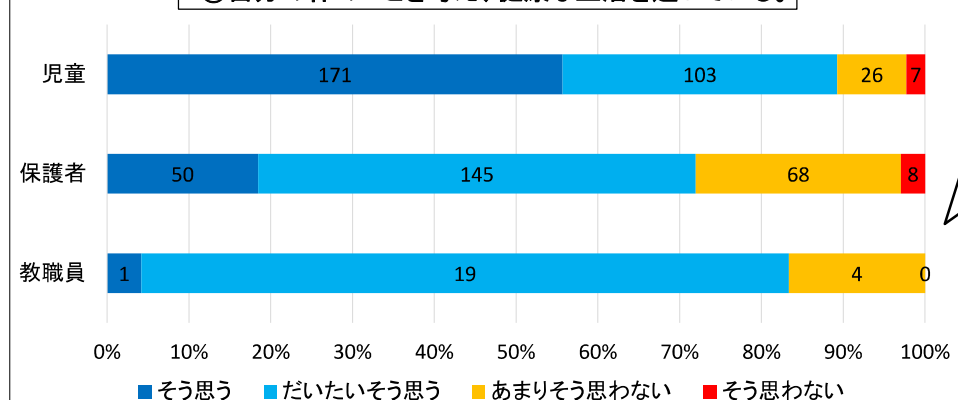
〔今後の取り組み〕

学校では、体育科の授業を中心に、体を動かすことの楽しさ、仲間と一緒に運動することの楽しさ等を伝えられるように工夫して取り組んでいます。学校では、大人の目もあるし、休み時間でも安全に運動を楽しむ環境が整っていると言えます。帰宅後の児童の遊び場にはいろいろと制限もありますので、安全を十分に確保した上で、運動に親しむ機会が増えるといいと思います。

D⑭進んで運動したり、外で遊んだりしている。



D⑮自分の体のことを考え、健康な生活を送っている。



項目15「自分の体のことを考え、健康な生活を送っている」

〔分析〕

第1回と比べて、児童と教職員の高評価が増えました。項目13、14で、学校では給食や運動等において、元気に過ごす児童の姿が高評価につながっていると考えられます。対して、保護者の高評価は減っています。家での過ごし方で、気になる点があるのかなと思います。例えば、夜寝る時間が遅くなっている児童も少なくないようです。そういった様子が目立つ児童が増えているのかもしれません。

〔今後の取り組み〕

基本的な生活習慣が徹底できるよう、保護者と学校が連携して児童の指導・支援にあたっていくことが必要であると考えます。2学期から始まったタブレットの持ち帰りにより、家庭での使い方のルールが徹底せず、夜更かしにつながる過ごし方に拍車がかかっている可能性があります。学校でも、運用のルールを改め、家庭学習としての使い方を見直していく必要があると感じています。今後も、引き続き児童の健康的な生活を支えていけるよう、多面的な支援を心掛けていきます。